

修了生通信

あしはら

2021年3月

部落解放・人権大学講座
2020年度 修了生通信

「反差別のロールモデル」を人権研修に

部落解放・人権研究所 理事 川口 泰司

これからは差別や人権侵害を前にしたとき、当事者だけでなくマジョリティの側が差別に対して「おかしい」と声をあげ、マイノリティや被害者には「私はあなたの味方だよ」と声をかけられる社会が求められています。そのために人権研修では「反差別のロールモデル」をたくさん提示して欲しいと思っています。

昨年8月、松江市の私立高校サッカー部の学生寮で国内初のメガクラスターが発生し、生徒や教員など100名以上が新型コロナウイルスに感染しました。学校長の謝罪会見がテレビで放送されると学校への嫌がらせの電話やネット上での誹謗中傷などが相次ぎました。

その時いち早くSNS上で励ましのメッセージを送ったのがブラジルにいた本田圭佑選手でした。Twitterに「コロナ感染して謝罪する必要なんてないよ。・・・それより熱と体は大丈夫？今はしっかり食べて休んでな。また治ったら夢に向かって頑張れ。非難している人だけでなく、心配している人も沢山いることを忘れんといて」と投稿しました。彼の投稿をきっかけに他のプロサッカー選手たちもSNSで誹謗中傷への抗議と高校生への激励メッセージが続きました。全国の高校のサッカー部が励ましの動画をSNS上にアップ、激励の手紙や支援物資が次々と高校に送られてきました。当該の高校の生徒や先生たちは「たくさんの誹謗中傷とコロナ対応で心が折れそうになったけど、それと同じくらい激励のメッセージがあったことで頑張れた」と語っていました。

同じ昨年8月末、テニスプレーヤーの大坂なおみ選手は黒人差別に抗議の意思を示し、人種差別で警察に殺害された黒人7人の名前が書かれたマスクをして全米オープンに出場し、見事

優勝しました。その後もSNSなどを通して大坂なおみ選手はBlack Lives Matter運動への参加を呼びかけています。大坂選手はマスコミの取材で「私のスポンサーは日本がほとんどであり、スポンサーを失うかもしれない」（米「タイム」誌）と不安な気持ちもあったと語っています。しかし、その日本では「#大坂なおみを支持します」がTwitterのトレンド入りするほど彼女の行動に激励を送る人たちの声があり、スポンサーや世論にも影響を与えました。差別に対してNOと声をあげた人を一人にしない。同じように思う人が沈黙せず、ワンアクションで社会が動きはじめます。コロナ禍でのこの一年、私たちはそのことを何度も目の当たりにしてきました。

ヘイトスピーチに抗議するカウンターが多くが日本人です。ヘイトデモの現場に行き、差別者に対してマジョリティの側である多くの日本人が「NO」と声をあげました。その反差別のうねりが「ヘイトスピーチ解消法」（2016年5月）を成立させ、差別主義者を孤立させていきました。セクシュアルマイノリティのイベントやレインボーパレードには当事者だけでなく、性の多様性を尊重し共に生きる「アライ」と呼ばれる人たちがたくさん参加しています。

人権研修の参加者にとって何より一番の「反差別ロールモデル」は目の前の人権担当者です。自分自身がそんな反差別の生き方や価値観を大事した生き方をすることで、自分の職場やコミュニティに反差別の価値観が生まれ、安心して過ごせる環境につながっていきます。そんな自分たちの日常にしっかりとつながる人権研修にしていきませんか。

オンラインで実施された2020年度の解放大学

開講以来はじめてのオンライン実施に

同窓会メールでもお知らせしましたとおり、新型コロナウイルスの世界的大流行の中、2020年度の部落解放・人権大学講座（解放大学）は、1974年の開講以来、はじめてオンラインで実施することとなりました。当研究所が開催している人権啓発東京講座（東京講座）との合同プログラムともなりました。

次ページが2020年度のプログラムです。

開講から第6回目までは、解放大学の例年のプログラムを踏まえた部落問題を軸とする講座を設定しました。第7回から12回までは、東京講座の例年のプログラムから、さまざまな差別・人権問題をテーマにした講座を設定しました。

講師には人権にかかわる第一線で活躍されている方や、差別・人権問題の当事者の方にそれぞれの思いや考え、問題意識を語っていただきました。

オンラインツール・Zoomのチャット機能を使って文字で質問をして、講師にコメントをいただいたりしました。対面での講座よりも多くの質問を受けることができました。

例年行っているフィールドワークも今年度のプログラムでは断念し、逆に、例年訪れていた場所からリモートで講演をいただきました。また、距離を問わないオンラインの特徴を活かして、国際NGO、反差別国際運動（IMADR）のスイス・ジュネーブ事務所から講演いただいたりもしました。

グループゼミでのレポート発表

プログラムの後半には、8～9人からなる班ごとの「グループゼミ」に取り組みました。

例年、部落問題など、差別・人権問題についての経験や意識について語り合い、学び合う取り組みとして行ってきた自己啓発学習について



は、オンラインで行うことは難しいとの判断から、修了課題となる自由課題研究レポートの作成に取り組むこととなりました。

自己紹介とそれまで受講した講座での学びをふりかえった後、レポートで取り上げたい「自分のテーマ」を考え、レポートの構想を発表し、班員や各班2人の助言者と意見やアドバイスを交わしました。さらには、それぞれのレポートのテーマに関するディスカッションも行ったり、助言者の経験談を話して頂いたりもしました。

レポートの中間発表を経て、7日間にわたるグループゼミの終わりに最終発表を行い、さまざまなテーマのレポートが完成しました。

オンラインでつながりながら、関係性の中での学びがどれほど可能なのか、心配されたところもありましたが、実際に顔をあわさないながらも、ある程度の交流ができ、レポートテーマや時事的な問題など、班内でディスカッションをすることもできました。（講座事務局）



2020年度 第116期 部落解放・人権大学講座(オンライン版) カリキュラム・日程

回	日程	午前 講座1	午後 講座2	午後 講座3	1日のふりかえり
		10:00~11:30	13:00~14:30	15:00~16:30	
1	8/26(水)	開講式 【記念講演1】 森 実さん	【記念講演2】 小林 節さん	【部落問題入門】 奥田 均さん	
2	9/2(水)	【同和・人権行政のあり方】 奥田 均さん	【マジョリティの特権を考える】 出口 真紀子さん		
3	9/10(木)	【企業と人権～部落問題を踏まえて】 柄川 忠一さん	【差別をなくす社会システムのあり方】 北口 未広さん		
4	9/17(木)	【部落の歴史(前近代)】 上杉 聡さん	【部落の歴史(前近代)】 上杉 聡さん	【差別戒名からみた部落問題】 高橋典男さん/人権センターなかの	
5	9/25(金)	【部落の歴史(近現代)】 渡辺 俊雄さん	【部落の歴史(近現代)】 渡辺 俊雄さん	【部落問題～私の歩んできた道】 組坂 繁之さん	
6	10/2(金)	【同和・人権教育の経験から】 土田 光子さん	【部落解放運動がめざすもの】 部落解放同盟大阪府連合会	【ネット社会と部落差別】 川口 泰司さん	
7	10/9(金)	【職場のハラスメント問題を考える】 内藤 忍さん	【メディアと人権～SNS時代、今や貴方も発信者～】 下村 健一さん		
8	10/15(木)	【発展途上国と国際共生】 三輪 開人さん	【日本のHIV・AIDS問題の今】 高久 陽介さん	【ホームレス問題】 北村 年子さん	
9	10/21(水)	【ハンセン病問題と人権】 原田 恵子さん	【青少年(性教育問題)】 染矢 明日香さん	【ヘイトスピーチ・フェイクニュース】 金 尚均さん	
10	10/28(水)	【障害者×就労】 小野 貴也さん	【写真で伝える世界と日本】 安田 菜津紀さん/佐藤慧さん		
11	11/4(水)	【性犯罪・性暴力被害者の実情】 山本 潤さん	【LGBTも働きやすい職場とは】 中島 潤さん	【見た目問題】 外川 浩子さん	
12	11/12(木)	【在日(外国人問題)】 朴 基浩さん	【子どもの人権(DV・貧困)】 森山 誉恵さん	【総括講演・人権啓発】 竹内 良さん	東京講座 修了式
13	11/19(木)	【ジェンダーと人権】 源淳子さん	【障害者の働く権利】 尾上 浩二さん	フィールドレポート 水平社博物館から 駒井忠之さん	
14	11/25(水)	【移住労働者の人権】 藤本 伸樹さん	【新型コロナ問題と人権】 松村 元樹さん	フィールドレポート IMADRジュネーブ事務所から 小松泰介さん	
15	2021年 1/13(水)	グループゼミ(オンライン)	グループゼミ(オンライン)		
16	1/20(水)	グループゼミ(オンライン)	グループゼミ(オンライン)		
17	1/28(木)	グループゼミ(オンライン)	グループゼミ(オンライン)		
18	2/3(水)	【司法と人権】 大川 一夫さん	【人権相談の基礎基本】 桑野 里美さん	フィールドレポート 高槻富田地域から 岡本工介さん	
19	2/9(火)	【情報と人権】 北口 未広さん	【人権研修の基礎基本】 堀井 悟さん	フィールドレポート 釜ヶ崎地域から 山田寛さん	
20	2/16(火)	グループゼミ(オンライン)	グループゼミ(オンライン)		
21	2/22(月)	グループゼミ(オンライン)	グループゼミ(オンライン)		
22	3/2(火)	グループゼミ(オンライン)	グループゼミ(オンライン)		
23	3/10(水)	修了レポート発表(グループ)	修了レポート発表(グループ)		
24	3/17(水)	修了レポート発表(全体)	【記念講演】 友永 健三さん	修了式	

オンラインの特徴をいかした聴講講座

オンラインとなった2020年度の講座では、多くの方に聴講受講もいただきました。グループゼミ以外の講座はすべて聴講対象とし、企業、

自治体、教育関係者など、全国各地から参加頂きました。2021年度も行いますので、修了生の皆さんもよろしかったらご参加ください。
(聴講受講料 1コマ3500円+税)

修了生のご活躍

電子版「日経ウーマノミクス」プロジェクトで、解放大学100期修了生の山田実和さん（積水ハウスESG経営推進本部ダイバーシティ推進部長）が紹介されています。

これまでのキャリアをふりかえる中で、人権担当としての学びや人とのつながりが広がったことなど、解放大学を含めて紹介いただいています。

ぜひ、右記サイトをご覧ください。

URL：

nwp.nikkei.com/story/sekisuihouse/sh19.html

タイトル：

多様性がつくる従業員の「幸せ」、
人事・法務の経験生かして推進

(2020年10月26日掲載)

修了生からのメッセージ

コロナ禍の中、2020年度は修了生通信で紹介する交流イベントもなかったようですので、ここ数年交流されている期の修了生幹事会代表の方にメッセージをお願いしました。

*** **

解放大学卒業後10年を迎えますが、当時「差別」について学んだことが今でも自分の心の拠り所になっています。貴重な学びの機会を大切にして、同期との仲間の輪を広げていってください。（103期 我妻さん）

コロナ感染拡大を機に、世界の人権問題はより一層顕在化し、様々なニュースに触れる度に、解放大学で学んだ「弱いところで社会の問題が顕在化する」というフレーズが頭に浮かんできます。2021年度はまた交流会を再開したいと考えているところです。

（107期 小松さん）

在宅勤務が増え、散歩の機会が増えました。見慣れた景色の中に新しい発見（最近、コバルトブルーのカワセミを見つけて感動しました！）があり、ふと解放大学108期で学んでいた頃の新しい発見や気づきや感動（+濃密な懇親会）が思い出されてきていたところでした。これまでの学びをいかして、コロナ禍の下、変わっていく環境の中で、変えてはいけないものを大切にして、皆が気持ち良くいれる社会にしていく意識を忘れないでいたいですね。（108期 音無さん）

私たち109期は全員で34名、2015年に卒業しました。「年2回修了生研修をしよう」と決めて、2019年までずっと続けてきましたが、2020年は一度も研修はできませんでした。この1年、非日常が日常へと変わってきました。新たな研修方法を考えるいい機会として、2021年こそは何か工夫をして研修をしようと考えています。

（109期 飯田さん）

解大111期は、例年4月当初から秋の研修会に向けて動き始めるが、昨年は早々と中止決定となった。このような状況の中、今期の解放大学はオンライン開催となった。人とのつながりを大切にする解放大学なので苦渋の選択であっただろう。自己啓発学習もなくなった。しかし、オンラインの特性を活かし海外からの報告を入れるなど、さすが解大と思わせる工夫もあった。コロナ禍の中、新しい解大の形をこれからも模索してください。期待しています。（111期 赤井さん）

コロナ禍でわかったのは、日本人がIT技術を使いこなせていなかったという事実。リモートワークなどは、コロナ以前からある技術。費用がかかるとか、実際に会ってナンボ、とかいう「あたりまえ」に阻まれていたのです。みなさんはどう考えますか？

（113期 市原さん）